

# 広報



# となみ野

通誌  
第12号  
平成26年5月  
発行

社会福祉法人手をつなぐとなみ野 〒932-0053 小矢部市石動町9番30号 TEL・FAX(0766)68-3822  
e-mail:tonamino@bz03.plala.or.jp http://www.tonamino.or.jp/



3月25日（火）北日本放送株式会社「24時間テレビ愛は地球を救う」よりサポートぷらすに福祉車両をいただき、贈呈式に出席してきました。

たも障野階るか  
歩みを強めたいと思  
つています。  
が害者へのきめ細かな相談と支援をはかり、誰  
が地域で安心して暮らせる社会の実現に向  
け

第二に相談支援事業の充実を図ります。従来  
に開設し、専任職員を二名配置して「となみ  
の利用者のみならず在宅や就労をしている  
地域生生活支援センターすまい

思大が事業所又は独立した事業所として障害者が生き  
きをつけて働くことのできる場となるよう、A型  
事業所としては稼働させ、豆菓子の製造と共に生産の増加  
と販路の拡大を図っています。又「あけぼの第二」の事  
業事業展開を進めます。又「あけぼの第二」の事  
業事業のいずれも、A型  
事業事業推進室においては「かき揚げ」の生産を本格  
化させて、玉ねぎや人参、ねぎ等の生産の拡大と新規に行  
う

ただくよい機会となりました。  
今年度は昨年までの歩みを振り返りさまざま  
な検証を重ね、新たな一步を踏み出したいと思  
います。



理事長 穴田 清

新たな一步を踏み出す

# 平成26年度スタート！

おかげさまで、昨年度、当法人の設立10周年という節目を迎えることができました。11年目となる本年度、気持ち新たに前進します。

## 平成26年度 事業計画(重点課題)

### (1)利用者支援の充実

かけがえのない一人として利用者と真摯に向き合い、その思いに耳を傾け、「組織力」「コミュニケーション力」「企画力」を結集して利用者支援に取り組むとともに、笑顔と活力あふれる事業所の構築に努めます。そのため、職員は情報を共有し、常に問題意識を持ち、また、自身のスキルアップに努めます。



### (2)職員の待遇改善・生きがいを持って働く職場づくりとスキルアップ

社会福祉法人手をつなぐとなみ野の職員としての自覚と誇りを持ち、常に職場内の情報を共有し、連携をとりながら利用者支援にあたらなければならない。職員間の和が保たれなければよりよい支援は望めません。

### (3)環境整備

利用者ははらき易い環境整備と新たな事業展開のための環境を整えます。

また自然に親しみ、土と触れ合う機会を設けます。

南砺事業所のグループホーム・生活介護事業所の計画。

砺波事業所福祉作業所南天桐の移転。

小矢部事業所 作業所とらぶあけぼのの共同農園の実施。



### (4)地域との積極的交流

障害を持つ人たちへの理解を得るとともに、利用者が地域で生き生きと暮らせるよう、さまざまな機会を捉えて地域との交流を図ります。

小矢部事業所 …… 溪明園メルヘンとの合同「夏まつり」

砺波事業所 …… 油田公民館祭りに合わせた「もちもち・かんかんまつり」、

ペタンク交流会

南砺事業所 …… 理休地区合同の「夏まつり」、

旅川会館「夏祭り」、

光龍館での「ふれ愛もちつき大会」

### (5)研修計画

職員のスキルアップのため内外研修会への積極的参加を促します。

### (6)会議

利用者支援のあり方、事業運営など、定期的に会議を開催し、情報共有、コミュニケーションを図ります。

### (7)資格取得研修の推奨

職務遂行にあたり、必要となる資格取得の推奨をします。



# 平成26年度 各事業所の取組ならびに抱負



事務長  
米永 敏

4月1日より事務長に着任いたしました。

無認可作業所の開設から今日の手をつなぐとなみ野となるまでは、それこそ諸先輩方や皆様の並々ならぬご努力と多くの方のご支援があった結果だと思います。

そのような多くの方々の思いと法人の理念を今心に熱く受け止め、法人のさらなる飛躍はもとより、利用者の方々、そして職員の皆様が幸せになるよう、微力ではありますが業務に取り組んで行きたいと思います。よろしくお願ひします。



砺波事業所・  
共同生活援助  
事業所  
チーフマネージャー  
大屋 靖久

私の夢は「共生社会」を実現することです。六年前から油田ペタンククラブの人たちと砺波事業所の利用者たちと試合をしています。クラブの人が「道で会ったら私の名前を呼んでくれました。」と嬉しそうに告げられました。この輪を広げて明るい社会にしたいのです。



共生型  
グループホーム  
チーフマネージャー  
長谷川 京子

平成24年共生型グループホームとしてスタートし2年。高齢者や障害者、職員の別なく「ふれあい、いたわりあい、ささえあい」ながら、一つ屋根の下で暮らしています。今年度は、障害者の働く場として、清掃作業の委託、共同菜園を模索し、実践を試みます。



地域生活支援  
センターすまいる  
センター長

法人の長年の想いであった相談支援事業の充実を目指して「地域生活支援センターすまいる」のセンター長を拝命いたしました。責任の重さを痛感しています。相談支援の基本「傾聴」「受容」「共感」の姿勢を忘れることなく、利用者の笑顔を求めて頑張ります。



小矢部事業所  
チーフマネージャー  
辻 信明

福祉とは本来、人の幸せを目指すものです。専門性は経験と学習に基づき、後からついてきます。まずは明るく穏やかに、スタッフがその力量を發揮できるように、努めて参ります。社会福祉法人の地域貢献も求められており、より切磋琢磨しながら、スピーディーな課題への対応に取り組んでいこうと念じております。



南砺事業所  
チーフマネージャー  
上農 進

南砺事業所の利用者は以前に比べると挨拶がハッキリと言えるようになってきたと思う。職員が毎日の支援の中で、いつも言っているのが漫透してきたのだろうと思う。今後は今以上に職員はどうすれば利用者へよりよい支援ができるか一人ひとり考えていただきたい。

さて南砺事業所における課題も多くあり農業作業の経営、生産活動の対応、グループホーム・生活介護等、これらは地域の方々との協力連携や話し合いが必要であり真剣に取り組んでいかなければと思っているところです。



## 研修報告



### 平成25年度 福祉サービス苦情解決研修会

地域生活支援センターすまいる  
相談支援専門員 山岸志江

第1部は施設管理者3名によるシンポジウム、第2部は昭和女子大学教授北本佳子氏による講演が行われた。

どの部においても、日頃の支援の姿勢や苦情に対する組織のあり方が取り上げられた。特に北本教授は、目黒区の苦情調整委員(オブズマン)としても活動しているため、話す言葉にとても説得力があり、自分自身、「苦情」に対する認識が変わった。

研修の中で、「苦情は宝」という言葉があった。「苦情というものをどう捉えるか。」・・・利用者や家族から苦情が寄せられることは、一見「困ったこと、恥ずかしいこと」のように思われがちだが、「苦情は宝=ありがたいこと」ととらえる視点を、これまで私はもっていなかった。

苦情が寄せられることで、「支援や組織のあり方を改善していくきっかけが得られる」と捉え、その「宝」をどう扱うか(対応するか)の過程がさらに重要なこと。

私自身、本人・保護者と面談するなかで、支援者や事業所に対しての「負の思い」を聞くことがある。勇気を出しての訴えに対し、「私に話することで、少しでも気持ちが軽くなってくれれば・・・」と、相談員として間違った自己満足で、せっかくの訴えをその場で完結させてしまっていた、答えを返さないまま、自分勝手な判断で通り過ぎてきたように思う。

ただし、すべての訴えに対して利用者・保護者の望む答えが返せるかといえば難しい面もある。が、なぜ難しいかの理由も含めて真摯にお伝えすることも苦情解決として必要なのかもしれない。そうすることで、相手との真の信頼関係を築いていくのではないかと思った。

今回の研修では、「苦情」を前向きなものと捉えるという視点に気づかされた。今後、もし利用者・保護者から負の訴えがあった場合、自分たちを成長させてくれる宝(材料)と捉え、その宝を人目のつかないところにしまい込むことがないよう、自分自身、気をつけていきたい。

# 言葉のかけはし

「無から有を産む苦しさ・難しさ」

社会福祉法人 手をつなぐ高岡

理事長 菅田 吉弘 様



関で地に一等常ま者さ的 おう中障のを共 基育業労り八平わの 続思常化達はし、全  
にき域於利ま時たのれ改さい法で害必受にすに成所を一年成り移高だうにしと尊、全  
訴るでい用だ介は範、革てて人 が要け話べ成会は目障四十、り岡つと、前て同巣多国  
えよもて者ま護障園十と長のと一持性るすてり、市的害月四私変でた、進い様と方で  
てう高も・だを害の月し年役し人つを事この立ボ、と福に年どり小よましく無敬面も  
い・齢高保前必者拡にてに割てで理感とと交つラ県し祉はにもと規うさて福認意に例  
き地化い護途要支大は・亘をのも念じ同を流てん行たサ・認が共模なにこ祉可のわの  
た域し諸者多と援、・障り果運多をて時学のいテ政事・障可運に作気”らとの念たな  
い生た問の難す区発障害国た営く踏おにび中のイは業ビ害を営障業が無れい作をり  
と活人題高なる分達害者でし体のまり、で大アもをス者得、す害所しかたう業表ご十二  
思型達と齢諸人へ障者総審て制障えま社適共切等ち選事自、る者がまら一壁所し活  
い共がし化問のの害虐合議いの害つす会正にな多ろ択業立小社に誕す。をな  
ま生住てに題支変 待支さき土者つ 参と働資くんし 支規会対生  
す施み検つが援、更高防援れた台が一又加能き、源の各運と援模福すし  
設慣討い山 次止法ていを自元・力 で方町営し法通社する二  
れさて積意G脳法 おと固定的身社に共す々村して所法法  
のたれはし思H機 がり思めしに体会応に のてすの授人律十九  
整地てて決・能が昨まい た提・自じ遊 心地まべ制産手や九  
備域い各い定C障施年しま地生供知立たび、 温域いて度とを制年  
をでま大ま支H害行のたす域活すのが福 まのりのになつ度が  
行生す会す援のさ四福 社がる・で祉共 まる支ま作伴りなも過  
政活。や、の一難れ月祉 会で仕精きサに ご援し業い、ぐ大き  
やがど研特あ元病、にの 資き組神る・創 理者た所十平高き  
各繼こ修にり化等障施抜 源るみの環ビリ、 解 で月成岡く時  
機続の会 方 害行本 による三境ス の市作就よ十も変代

## 活動報告

### 共生型グループホーム らぶあけぼの 春の行楽

4月15日、共生型グループホームらぶあけぼのでは、1階と2階の利用者みんなで新湊大橋と海王丸を見に出かけました。吹く風はまだ冷たく感じましたが、天気に恵まれ心地よい日となりました。

お昼には海の宝石と言われる白エビのかき揚げ丼をいただき、それぞれにお土産を選び、お腹も気持ちも大満足の行楽となりました。



## 訃報

5月9日、南砺事業所  
チーフマネージャー上農進さんが  
ご逝去されました。  
ご冥福をお祈りいたします。



## 職員人事異動

3月31日付  
<退職>  
・畠 和美（南天桐）

4月1日付  
<新規採用>

- ・事務長 米永 敏（本部）
- ・介護職員 穴田幸二（らぶあけぼの）
- ・支援員 齋藤千枝（エルハート城端）
- ・看護師 村井美代（サポートぷらす）

## 行事予定

5月 作業所交流会  
(5月28日 研波青少年自然の家にて)

6月 職員全体研修

## …編…集…後…記 ……

今年の桜は長く見ることが出来ました。この時期にしか咲かない桜に皆さんも魅了されたことと思います。これからは野山の新緑が爽やかな風にそよぐ気持ちのいい季節になりますね。

利用者・職員全員でまた元気に一年を過ごせていけたらと思っています。今年度も本広報をどうぞお楽しみに！